



平成26年証券アナリスト第1次試験（秋試験）

解答速報！

2014/10/10 現在

【経 済】

第1問（22点）

I

問1 D 問2 B 問3 C 問4 A 問5 B 問6 C 問7 A 問8 C
問9 A

II

問1 A 問2 B 問3 C

III

問1 D 問2 E

第2問（35点）

I

問1 B 問2 B 問3 A 問4 D 問5 A 問6 C 問7 C 問8 A
問9 A 問10 B 問11 D

II

問1 B 問2 C 問3 B

III

問1 C 問2 D 問3 A

IV

問1 C 問2 D 問3 D

第3問（15点）

問1 A 問2 C 問3 B 問4 C 問5 A 問6 C 問7 D 問8 B
問9 A 問10 A

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC

第4問（18点）

I

問1 A 問2 A 問3 B 問4 C

II

問1 C 問2 B 問3 D

III

問1 D 問2 D 問3 D

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。



2014 証券アナリスト 1 次試験（秋）

「経済」

今回の試験のほとんどの出題内容は、昨年の秋試験および今年の春試験をそのまま受け継いだものであり、また、出題レベルもこれらの試験と同じように標準的なものでした。とくに、多くの受験者にとって予期していない出題内容として、第 1 問 I の問 3 と問 6、第 2 問 I の問 8、第 3 問の問 7 などを挙げることができますが、これらの問題を除いた試験問題全体としては、過去のアナリスト試験でも出題されている基本問題が多く含まれており、そこから確実に得点できることが、合格の扉を開ける鍵となっているといえます。

問題の構成を見てみますと、過去の本試験と同じように、大問 4 問で構成されています。小問の出題数は、第 1 問 14 題、第 2 問 20 題、第 3 問 10 題、第 4 問 10 題と、全部で 54 題でした（今年の春試験と同じです）。また、各大問の配点は、第 1 問 22 点、第 2 問 35 点、第 3 問 15 点、第 4 問 18 点と、今年の春試験と同じでした（満点は 90 点です）。

大問別に今回の試験の概要と特徴について見てみると、第 1 問（ミクロ経済学）では、消費者行動（無差別曲線、余暇時間と労働時間の選択、需要の価格弾力性など）、企業行動（損益分岐点、独占市場と寡占市場など）、完全競争市場（需要曲線と供給曲線、均衡価格、ワルラスの調整過程、比較静学、余剰分析など）、市場の失敗（公共財、外部効果、費用逡減産業など）、状態価格、ゲーム理論、情報の経済学などから出題されています。なお、余暇時間と労働時間の選択に関する計算問題と損益分岐点の計算問題は、これまで出題例がない問題でしたので、これらの問題から計算問題の難易度が高くなったと感じた受験者も居られたのではないかと思います。

第 2 問（マクロ経済全般）では、国民経済計算、45 度線モデル（乗数効果）、信用乗数、IS-LM 分析、AD-AS 分析、消費の決定理論（ケインズ型消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説）、フィッシャー方程式、インフレとデフレの効果、失業とフィリップス曲線、成長会計、貯蓄投資バランスなど、過去に出題された内容に沿った問題が多く出題されています。

第 3 問（金融経済）では、金融市場と金融機関、日本の金融制度、日本銀行と金融政策、貨幣保有の動機、財政制度と公債発行の問題点など、これまでも出題されている知識の問題が中心となっています。ただし、日銀当座預金増減要因と金融調節のようなレベルの高い問題も含まれていました。

第 4 問（国際金融）では、国際収支の内訳（ただし、2014 年 1 月の国際収支関連統計の見直し前の制度にもとづいています。）、購買力平価説、先物カバーなしの金利裁定式、ポートフォリオ・バランス・アプローチ、財政政策と為替レートなど、過去の出題内容と同じような問題が中心でした。ただし、毎回 3 題程度出題される為替レートに関する計算問題が、今回の試験では 1 題しか出題されていない点も特徴として挙げられます。

以上